

医療事情だけを優先しない

——医療施設での役割

中里伸也・Nクリニック院長

今回は、クリニックにおけるスポーツ・コンディショニングドクターの役割について語られる。スポーツ現場の経験から生まれる言葉は、医療の本質を再認識させられる。

選手やコーチに詳細を伝える

スポーツ・コンディショニングドクターは、クリニックや病院での役割と、スポーツ現場での役割（試合や練習）があります。今回は、前者について説明します。クリニックや病院でのドクターの役割は、スポーツ選手やスポーツ現場の情報をできるだけ多く聴取することから始まります。そして、事情を十分に考慮した治療方針を立て、詳細に選手やコーチに伝えるのです。医療施設での業務ばかりに従事していると、無意識のうちに医療事情だけを優先させてしまうことがありますから注意が必要です。

医療施設を訪れる意味

診療を訪れる選手は、基本的に患者です。患者が大事な時間を割いて医療施設を訪れるには、それなりの意味があるということを理解しなくてはなりません。患者は、「スポーツができなくなった」「スポーツはできるがパフォーマンスレベルが落ちている」「パフォーマンスレベルは落ちていないが、このまま放っておいてプレーして問題がないのか？」…などを知るために診療にきます。時には、練習から遠ざかりたいがために診療にくる選手や、コーチやトレーナーから勧められて受診する選手、不調の原因をケガのせい

にしたい選手もいるかもしれませんが。医療施設を訪れる意味も選手によって異なることを念頭に入れておく必要があるでしょう。

問診から現病歴の聴取

実際の診療では、受傷機転や既往歴の情報に関して、詳細に採取する必要があります。①外傷か障害か、②受傷機転の把握、③初回か再発か、④今までの治療歴、などを確認することは、今後の治療方針の立案において非常に重要な情報になります。また、治療方針の立案の際は、その選手が置かれている状況に配慮する必要もあります。①スポーツに関わってきた期間（習熟度）、②ポジション、③チーム内での位置づけ（レギュラー・非レギュラー）、④重要視している試合、などの情報を考慮する必要があるでしょう。この部分が抜け落ちてしまうと、ドクター主導の治療方針になってしまいます。図1は、私が活用しているチームとの連絡票になります。競技によって内容は変えていますが、今回は大学バスケットボールチームとの連絡票を紹介します。こういった連絡票を活用し、できるだけスポーツ選手やスポーツ現場のことを考え、トレーナーやコーチや監督との情報交換をすることが重要です。

治療方針の決定

ここで、ある診断が下り、手術という治療方針がある場合を想定したいと思います。手術の適応には、絶対適応（手術しか方法はないもの）と相対適応（必ずしも手術だけが最善の方法ではないもの）があります。前者の場合は、時期を逸すると治療内容が変わる場合があります。ですから、実施時期などをよく考慮し、手術を進めていくことになります。一方、後者の場合、絶対適応以上に多面的な側面からの検討が必要です。①手術のメリットとデメリット、②手術の時期（シーズン途中にしないか？ シーズン終了後でもよいのか？）、③手術をした場合における復帰までの期間、④手術をしない場合のリスク、⑤手術をしない場合の取り組み（保存療法の方法）、についても詳細にコミュニケーションをとる必要があります。

選手によっては、シーズン中に手術を言い渡された際、非常にナーバスになる場合があります。ですから、精神面が競技パフォーマンスに大きく影響する場合は、十分に配慮しなければなりません。また、このことはプロスポーツだけでなく、学生スポーツにおいても同様です。中学3年生や高校3年生、大学4年生の最終学年の試合結果は、その後のスポーツ人生に多くの影響を与えます。その選手だけでなく、コーチやトレーナーなどの関係者ともコミュニケーションをとれることが理想的でしょう。時には、選手の希望と所属チ

派遣チーム コンディション連絡票

ふりがな：
 氏名： 年 生 競技歴 年
 出身校： A B C チーム ポジション
 受傷日：（いつ又はいつ頃から） 年 月 日～

部位：	右	左	内側	中央	外側	前面	全体	後面		
	頭部	頰椎	肩関節	上腕	肘関節	前腕	手関節	手部	背部	肋骨
	腰部	殿部	股関節	大腿	膝関節	下腿	足関節	足部	その他（ ）	
受傷機転（具体的に）：						症状： 現在の状態：（ ）痛くて動かせない （ ）痛みがプレイできる （ ）プレイできるが支障あり				
同部位の治療歴（どこでいつどのような治療をおこなったか？）： いつ ところで（医療機関名） 治療方針										
本人の希望：										
チームからの連絡：希望する復帰時期 月 日ごろ、目標とする試合など 月 日 指示者サイン： （ / 記入）										

診察日：H 年 月 日（ ）

今回の診断結果は、下記の通りです。

診断名：

評価： 診察 レントゲン エコー CT MRI 検査待機（次回診察時に決定）

状態・程度： 軽症 中等度 重症

治療方針： 診察フォロー リハビリ通院 注射 鍼 手術 経過観察

プレーへの参加： 問題なし コンタクトのみ制限 受傷部位のみ制限

リハビリテーションに専念 保留 安静

練習復帰予定時期： 月 日ごろ 試合復帰予定時期： 月 日ごろ

特記事項など：

診察 Dr.

評価 Dr.

Nクリニック

図 3 派遣チームコンディション連絡票

ームとの希望が異なる場合もあります。この場合は、十分な話し合いが必要です。このように、今後のスポーツ人生における短期的・中期的・長期的なメリットやデメリットの考慮や、主観的立場や客観的立場からの検討も必要なのです。

密接な情報交換に努める

スポーツ・コンディショニングドクターは、さまざまな側面から治療法方針を決定します。そして、その

内容を、選手本人だけでなく所属チームのコーチや監督にも伝えることとなります。その選手が、チームでの役割が大きい場合、戦術面にも影響を与えることとなります。ですから、①ケガの診断名、②重症度、③今後の治療方針、④練習復帰時期、⑤試合復帰時期、などは明確に伝達する必要があります。また、復帰時期については、当初の見積もりとは異なる場合があります。その際も、常に進捗を伝達し、チームの一員と

して選手の治療に従事しなければなりません。スポーツ選手の診療に関わるドクターは、スポーツ現場との情報交換に努めることが非常に重要なのです。（編集／南川哲人）

■メモ

Nクリニック

〒596-0045

大阪府岸和田市別所町3丁目10-10

TEL：072-432-4976

<http://www.n-cli.com/index.htm>